

## メッセージアウトライン 申命記8:1~20 「 荒野の四十年 」

申命記はモーセ五書(創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記)の最後の書である。

シナイ半島の荒野の四十年にわたる苦しい旅を終え、いよいよ約束のカナンの地に入るのを前にして、モーセがイスラエルの民に告げた決別の説教である。

エジプトを脱出したことも、シナイ山で律法を授けられたことも経験していない新しい世代にきちんと体系的に神のみことばを伝え、教えておく必要があった。

「申命記」とは神の命令がモーセによって申し告げられたものという意味で、原文のヘブル語では「エーレー・ハッデバリーム」(これらはことばである)という名で呼ばれている。

[1]「私が今日あなたに命じるすべての命令を、あなたがたは守り行わなければならない。そうすれば、あなたがたは生きて数を増やし、主があなたがたの父祖たちに誓われた地に入って、それを所有することができる」

「あなた」単数形であるが、これは一つの国民としてのイスラエルを現わしている。この「命令」とは新しい命令ではなく、かつてあのシナイの荒野において神がモーセを通して与えられた十戒を始めとするさまざまな掟と定めのことである。→律法一度教えられても、それを繰り返さなければ、人は忘れてしまう。親の代では覚えていても子どもの代では覚えていないかもしれない。モーセは荒野の四十年を回想しながら、この掟と定めを語り、カナンの地に入ろうとしている新しい世代にそれを守り行うように命じるのである。

その掟と定めを守り行うとどうなるのか。→「そうすれば、あなたがたは生きて数を増やし、主があなたがたの父祖たちに誓われた地に入って、それを所有することができる」これは祝福の約束である。この掟と定めはイスラエルが神の民としてふさわしく生きるために、最も大切なものであった。続いてモーセはイスラエルの民が荒野で過ごした四十年の意義を語っていく。

[2]「あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを歩ませられたすべての道を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試し、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった」

イスラエルはエジプトを脱出してから、主が海の水を分けられた紅海を通過して、シナイ半島に入り、それから四十年の長きにわたって、荒野の旅を続けなければならなかった。もっと短期間でカナンの地に入ることもできたのだが、彼らの不信仰のゆえに四十年も旅を続けなければならなかった。主は「荒野であなたを歩ませられたすべての道を覚えていなければならない」と言われる。

「のど元過ぎれば熱さ忘れる」のことばのように過去のことを忘れてしまうのではなく、イスラエルはどこで苦しんで、どのように不信仰になり、どのように主が助けてくださったか、また、どのようなさばきを受けたか、その全行程を覚えていなければならないのである。不信仰、罪、さばき、それにもかかわらず、主のあわれみと恵み、助け、救い、導き、守りがあったこと一つひとつを彼らは忘れてはならないのである。「それは、あなたを苦しめて、あなたを試し、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった」これが荒野で四十年を過ごした目的の一つであった。

[3]「それで主はあなたがたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということを、あなたに分からせるためであった」

彼らはギリギリまで苦しめられ、試みられた。しかし、その結果、彼らは彼らとその先祖たちも知らなかった天よりの食物マナを主によって与えられ、荒野の四十年間それによって養われることとなった。「主の御口から出るすべてのもの」とは主が語られるみことば、神のことばのこと。

人の力によらない天からのマナによって日々養われるということは、イスラエルの民に主のみことば、そしてそれによって示される主のみこころこそ生きるための根拠であることをわからせるためであった。マナは人々の肉体を養い、健康を支えたが、その霊的な意味は、主が語られるみことばによってこそ人は正しく真実に生きることができるといふことである。

主イエス・キリストもマタイ4:4でサタンの誘惑にあったとき、この箇所を引用して対抗された。

[4]「この四十年の間、あなたの衣服はすり切れず、あなたの足は腫れなかった」

これは荒野における四十年間の主の守りの御手を強調する表現である。主は彼らの不信仰に対してはきびしいさばきをなされたが、出エジプト以来ずっと彼らを守り導いて来られたのである。

[5]「あなたは、人がその子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練されることを知らなければならない」

ここでは荒野の四十年の旅がイスラエルにとって訓練の意味があったということが分かる。彼らはこの四十年の間、神の民として訓練され、整えられてきた。神の民として何の訓練も信仰の養いもないままにカナンに入ったならば、たちまちのうちに強大なカナン人に滅ばされてしまうか、同化されて偶像崇拜や様々な罪や不品行に陥り、神の民としての意識や一体性を失ってしまったであろう。主が荒野の四十年を通してイスラエルを苦しめ、訓練されたのは実は愛するご自身の子として扱っておられたゆえであった。→ヘブル12:5b~11

彼らは主なる神にのみ信頼して生きること、前進することを訓練されたのである。

[6]「あなたの神、主の命令を守って主の道に歩み、主を恐れなさい」

これがイスラエルの民がこれからカナン之地に入って行って守るべき神の民としての生き方なのである。

[7-9] この箇所は主がイスラエルを導き入れようとしている良い地、カナン之地についての描写である。そこは豊かな水や農産物を産し、民はもはや食物のことで心配する必要はなくなるのである。またそこは鉱物資源にも恵まれていた。「その石は鉄で」とは鉄を含む石、鉄鉱石のことと思われる。また山からは銅を掘り出すことができた。

[10] そのような良い地を与えくださった主をほめたたえるべきことが命じられる。

[11-14a] ここはそのような豊かな繁栄の中で高慢になってしまっ、主の命令と定めと掟を守らず、主ご自身を忘れてしまうことがないようにとの警告が述べられている。

[14b-16]「主はあなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出し、燃える蛇やサソリのいるあの大きな恐ろしい荒野、水のない乾ききった地を通らせ、硬い岩からあなたのために水を流れ出させ、あなたの父祖たちが知らなかったマナを、荒野であなたに食べさせてくださった。それは、あなたを苦しめ、あなたを試し、ついにはあなたを幸せにするためだったのである」

この箇所では主が出エジプト以来、今日までイスラエルの民になしてくださったみわざとその目的が述べられている。2～3節では荒野で受けたさまざまな苦しみは何のためであったかということが語られたが、ここでは主が荒野でなしてくださったみわざに焦点が当てられている。彼らが荒野の四十年の旅で受けた様々な苦しみ、試み、そしてそのような状態からの主の救い、守り、助けのみわざがあった。彼らはそのようにして今日まで歩んでくることができた。その目的こそ、「ついにはあなたを幸せにするため」であった。

長い長い荒野の旅で苦勞に苦勞を重ね、ついには失意と悲しみのうちに倒れてしまうのではなく、その苦しみや試みはついにはイスラエルを幸せにするためであったというのである。主なる神はすばらしいゴールを用意してくださる。

マラソン選手が苦しい思いをして長距離を走ってゴールした時、そこに勝利の冠やメダルが用意されていたなら、それまでの苦しみは一気に吹き飛んでしまうであろう。四十年にわたる荒野の旅はイスラエルにとって無駄ではなかった。無益な時間の浪費ではなかった。確かに他の地域や国々の人々に比べれば何もない岩や石ころだらけの荒野での生活は神の守りや導きがあるとはいえ、質素であり、変化に乏しいものであったかもしれない。そしてさまざまな不信仰や罪のもたらす主のきびしいさばき、毒蛇やサソリ、疫病も経験し、アマレク人などの敵による略奪や攻撃にも警戒しなければならなかった。しかし、主はそれらすべてのことをも用いて、つ

いにはイスラエルを幸せにしようとしていたのである。このことは今までイスラエルが知ることはできなかったすばらしい主のご計画である。

私たち信仰者が受けるさまざまな苦しみや悲しみもこのような面から考える必要がある。→ついにはあなたを幸せにするためであった。

神は冷たく情け容赦のないお方ではなく、私たち信仰者を愛していただき、それゆえにさまざまなところを通されるが、最終的には私たちは祝福をいただくことができるのである。

[17-20] この箇所は警告である。

富を築き上げる力を与えてくださるのは主なる神であって自分自身の力ではないことを忘れてはならない。(17)

「あなたがたの神、主を心に据えなさい」(18) 主を心の中心に据え、主をいつも覚えていなさいの意。なぜなら、あなたの父祖たちに誓った契約を今日のように果たすため、あなたに富を築き上げる力を与えられた神であるから。

「もしあなたが、あなたの神、主を忘れ、ほかの神々に従って行き、それらに仕え、それらを拝むようなことがあれば、今日、私はあなたがたにこう警告する。あなたがたは必ず滅びる。主があなたがたの前から滅ぼされる国々のように、あなたがたも滅びる。あなたがたが自分たちの神、主のみ声に聞き従わないからである」(19~20)

私たちも目の前の問題や苦しみだけに目を向けず、それらのものを通して訓練され、最終的に主なる神が私たちに祝福を与え、幸せにして下さるのだということを心から信じる必要がある。

そして困難な時だけでなく豊かに祝福されるようになった時も、高慢になったり、主に不服従、不信仰になったり、偶像礼拝をしたり、この世の流れに流されるような者になってはならない。

イスラエルへの祝福と警告はまた私たち信仰者にも当てはまるのである。

→ヘブル12:2~11